

研究分野	海洋構造・資源評価	部名	漁場環境部
研究課題名	資源評価調査委託事業のうち沖合定線観測、浮魚資源調査		
予算区分	漁業調整費（国委託）		
試験研究実施年度・研究期間	H.17～H.21		
担当	鈴木 亮・黄金崎 栄一・篠原 由香		
協力・分担関係	東北区水産研究所、日本海区水産研究所、漁業情報サービスセンター		

〈目的〉

沖合域の海況に関する情報を収集・分析し、漁海況予報等の資料とするほか、水産資源の安定のための基礎資料を得る。

〈試験研究方法〉

青森県の日本海沖合定線観測（年4回）、太平洋沖合定線観測（年4回）において、CTDにより、0m～1000mの水温・塩分を観測する。合わせて、ノルパックネットにより0m～150mの鉛直曳きを行い、卵稚仔、プランクトンを採集するほかニスキン採水器により0m～150mで採水し、クロロフィルの分析を行う。また、浮魚類の漁獲情報の集計及び魚体精密測定を行う。

〈結果の概要・要約〉

得られた水温、塩分データは fresco システムによりデータ送信を行った。採取した卵稚仔、プランクトン試料は、分析業務を実施する関係機関へ送付した。

各調査結果により日本海における対馬暖流勢力及び太平洋における津軽暖

流勢力をウオダス（漁海況速報）等に掲載した。浮魚類の漁獲情報の集計結果を fresco システムによりデータ送信を行った。更にスルメイカ、イワシ類、アジ・サバ類の魚体精密測定を行い、測定結果を独立行政法人水産総合研究センターへ報告した。

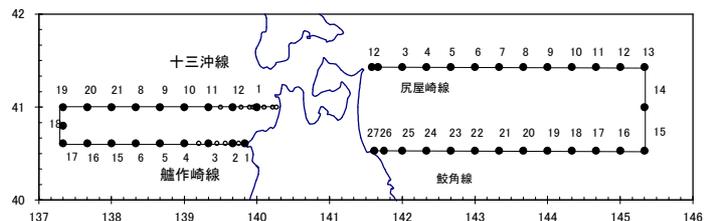


図1 青森県沖合海洋観測線図(日本海・太平洋)

〈主要成果の具体的なデータ〉

1. 日本海（6, 9, 11, 3月）

(1) 各層水温

6月は0m層で平年並み、50m層、100m層ではかなり高め。9月は0m層でやや低め、50m層、100m層では平年並み。11月は0m層でかなり高め、50m層でやや高め、100m層ではやや高め。3月は0m層、50m層、100m層ともに平年並み。

(2) 対馬暖流の流幅

6月は鱸作崎線ではなはだ広く、十三沖線ではなはだ狭め。9月は鱸作崎線でやや広く、十三沖線ではかなり広め。11月は鱸作崎線、十三沖線ともに平年並み。3月は鱸作崎線でやや狭く、十三沖線ではかなり広め。

(3) 水塊深度

6月はやや深め、9月は平年並み、11月はやや浅め、3月は平年並み。

(4)北上流量

6月は平年並み、9月、11月、3月はやや少なめ。

(5)対馬暖流の勢力

6月はやや強め、9月、11月、3月は平年並み。

2. 太平洋 (6, 9, 12, 3月)

(1)各層水温

6月は0m層、50m層、100m層ともにはなはだ高め。9月は0m層でやや高め、50m層で平年並み、100m層ではやや高め。12月は0m層、50m層、100m層ともにやや高め。3月は0m層、100m層ともに平年並み、50m層ではやや低め。

(2)水塊深度

6月、9月、12月、3月ともに平年並み。

(3)津軽暖流の東方への張り出し位置

6月はやや東偏、9月はかなり東偏、12月は平年並み、3月はやや東偏。

3. 浮魚サンプリング

月1回の割合で外ヶ浜町平館沖において、定置網の漁獲物からのサンプリングを試みた結果、マイワシは6月及び10月、カタクチイワシは5、7、9月及び3月、サバ類は6～11月、マアジは5～7月、9～10月及び3月にサンプルが得られた。その中でサバ類、マアジ及びカタクチイワシは9月に新規加入を確認した。

〈今後の問題点〉

太平洋の沖合定線観測では、3、12月の冬季の天候が安定せず、東経145度20分付近まで沖出しして連続観測することが困難であることから、観測ラインや観測回数の見直しを行う必要がある。

また、浮魚精密測定の調査対象種となっているイワシ類、アジ・サバ類の漁獲が低調に推移しているため、新規加入を正確に把握できるまでには至っていない。調査の継続を含め、調査内容を検討する必要がある。

表1 観測、測定項目一覧表

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
定線海洋観測(日本海)			◎			◎		◎				◎	4回
定線海洋観測(太平洋)			◎		◎					◎		◎	4回
卵稚仔・プランクトン採集(日本海)	20	20	20									20	80地点
卵稚仔・プランクトン採集(太平洋)			12		12					12		12	48地点
クロロフィルa(太平洋)			13		13					13		13	52地点
スルメイカ精密測定			○	○	○	○							4ヶ月
浮魚精密測定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	周年

〈次年度の具体的計画〉

定期海洋観測等により漁況情報を引き続き収集・分析する。その結果を fresco

システムにより送信する。各調査結果により日本海の対馬暖流勢力及び太平洋の津軽暖流勢力等の海況情報をウオダス、ホームページ等により水産関係機関、漁業者に情報を提供する。

また、浮魚類の漁獲情報の収集及び魚体精密測定を行う。

〈結果の発表・活用状況等〉

発表：平成19年度東北ブロック水産海洋連絡会

報告：平成19年度漁況海況予報関係事業結果報告書

：平成19年定線観測結果表